

投資者の皆様へ

2022年5月12日



商 号 SBIアセットマネジメント株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第311号
 加入協会 一般社団法人投資信託協会
 一般社団法人日本投資顧問業協会

5月12日の弊社ファンドの基準価額下落について

平素は弊社ファンドをご愛顧いただき、誠にありがとうございます。
 以下のファンドの基準価額が5月12日に大きく下落しましたので、その要因等についてご報告申し上げます。

1.対象ファンドの基準価額及び騰落率(5月12日)

| ファンド名称 | 基準価額 | 前営業日比 | 騰落率 |
|----------------------|----------|----------|-------|
| ソフトバンク&SBIグループ株式ファンド | 15,547 円 | ▲1,027 円 | ▲6.2% |

2.基準価額下落の主な要因及び今後の見通し

本レポートの対象ファンドに関する基準価額の下落要因及び今後の見通しは以下の通りです。

5月12日の日本株市場は、前日の米株市場が下落した流れを引き継ぎ、軟調な展開となりました。

前日に米国で発表された4月の消費者物価指数(CPI)が市場予想を上回る結果となり、高インフレ⇒個人消費減退⇒景気減速懸念の高まりが意識され、前日の米株は売りに押される展開となりました。特に、FRB(米連邦準備制度理事会)がインフレを抑制するために積極的な金融引き締めを実施するとの見方から、高PER株への売り圧力が強く、ハイテク株が中心であるナスダック総合指数は前日比3%超の下落となりました。

そうした流れを引き継ぎ、日本株市場でも高バリュエーション株を中心に売りに押される展開となり、日経平均は前日比464.92円安(同1.8%安)となりました。特に、日経平均先物への売り圧力が強まったこともあり、値がさ株の下落が大きく、ファーストリテイリングが同4.6%安、ソフトバンクグループ(以下、SBG)が同8.0%安と、この2銘柄で日経平均を180円弱押し下げる結果となりました。

こうした中、当社が運用するソフトバンク&SBIグループ株式ファンドは大幅な下落を余儀なくされました。組入比率のもっとも高いSBGが既述の要因で大幅安となった他、前日に22年3月期の決算を発表したソフトバンクが、新料金プラン(通信費値下げ)の影響が想定以上に大きくなることから、PayPay子会社化に伴う一過性利益の影響を除くと今期

○本資料は、SBIアセットマネジメント株式会社が信頼できると判断したデータに基づき作成されておりますが、その正確性、完全性について保証するものではありません。また、将来予告なく変更されることがあります。○本資料中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の傾向、数値等を予測するものではありません。○投資信託は値動きのある証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本保証はありません。○投資信託の運用による損益はすべて受益者の皆様に帰属します。○お申込みの際には必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認の上、お客様自身でご判断ください。

(23/3期)の営業利益が大幅減益になる計画と示したことが嫌気され、同6%弱の下落となり、基準価格を押し下げました。

足元の日本株市場では、急激な米実質金利の上昇や、中国における新型コロナ感染拡大を受けた主要都市のロックダウンの影響、足元進んでいる企業の決算発表における今期会社計画の弱さなどから、株価反転のきっかけがつかめていません。しかし、FRBの積極的な金融引き締め策の影響の織り込みはかなり進んでいると見られることに加え、中国では新型コロナの新規感染者数が減少傾向に転じています。そして、新型コロナ禍からの経済活動正常化への動きや、部品の供給制約解消の動き等から、企業業績の改善傾向は続くと見込まれ、年末までを見通せば、日本株は上昇に転じると予想されます。投資家としては、今は“我慢の時”として、下落局面での押し目買いスタンスが求められると考えております。

このような環境下、当社では、引き続き適時適切な運用を行うべく尽力していく所存ですので、今後ともよろしくご願い申し上げます。

以上

投資信託にかかるリスク

投資信託は、主に国内外の株式・公社債等値動きのある証券を投資対象としますので、組入株式の価格の下落や、組入株式の発行体の財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落し、その結果、大きく損失を被る場合があります。

また、投資信託は、それぞれの投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、お申込みの際には必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認の上、お客様自身でご判断ください。

※投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本保証はありません。

お客様に直接・間接にご負担いただく費用等

(お買付時に直接ご負担いただく費用)

- お買付手数料 上限 3.3%(税抜 3.0%)

(途中解約時に直接ご負担いただく費用)

- 信託財産留保額 上限 0.5%

(保有期間中にファンドが負担する費用(間接的にご負担いただく費用))

- 信託報酬 上限 2.2%(税抜 2.0%)

※成功報酬制を採用する投資信託については、基準価額の水準等により報酬額が変動するため、上限等を示すことができません。また、上記上限を超える場合があります。

●その他の費用

監査費用、有価証券売買時にかかる売買手数料、信託事務の諸費用等が信託財産から差引かれます。その他の費用は、監査費用を除き、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用等につきましては、一般的な投資信託を想定しています。費用の料率につきましては、SBIアセットマネジメント株式会社が運用するすべての投資信託のうち、ご負担いただく費用における上限を記載しております。また、成功報酬を採用する投資信託については、基準価額の水準等により報酬額が変動するため、上限額を超える場合があります。投資信託にかかるリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、お申込みの際には、必ず該当投資信託の投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認の上、お客様自身でご判断ください。

投資信託ご購入の注意

- 投資信託をご購入の際は、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめ、もしくは同時にお受取りになり、内容をご確認ください。
- 投資信託は値動きのあるものであり、元本保証、利回り保証、及び一定の運用成果の保証をするものではありません。したがって、運用実績によっては元本割れする可能性があります。
- 投資信託の基準価額の下落により損失を被るリスクは、投資信託をご購入のお客様が負うこととなります。
- 投資信託は預金ではなく、預金保険の対象ではありません。
- 銀行など登録金融機関でご購入いただく投資信託は、投資者保護基金の支払対象ではありません。